みんなの皆野 ふれあいまつり

ふれあいまつりでは協力隊がそれぞれのブースを出店しました。東・出沼・沼子隊員は「ちきおこチャリティーフリマ」を開催し、子ども服やおもちゃ、児童書など子ども用品に特化したフリーマーケットとして多くのかたにご来場いただきました。

当日は、み～なちゃん食堂やまんげつ食堂を知らなかった町民のかたとお話しでき、特にまんげつ食堂は「どなたでも気軽に参加できる場所」であることを知っていただく良い機会となりました。

また、ご家庭で使わなくなったものを持ち寄っていただくことで、出沼隊員が始めた「片付けサポート部」としても貢献できたと感じています。さらに、会場では11,797円の募金を頂き、み～なちゃん食堂で活用させていただく予定です。

今後は、みなのんちに常設型の「くるくるステーション」を設ける予定です。子ども用品に限らず、まだ使えるけれど使っていないものを自由に交換や陳列できる場として準備を進めています。詳細は地域おこし協力隊のInstagramへお問い合わせください。

沼子　静煌

フリーマーケットやデジタルアートサークル

4/5

皆野高校60年を振り返る

皆野高校は令和８年３月で閉校舎となり、４月からは秩父高校と統合して歴史をつないでいきます。

そこで、５回にわたり皆野高校60年の歩みを振り返ります。

大渕の新校舎で 飛躍、充実・発展のとき

昭和45年８月、国神の大渕(上殿)の高台に新校舎竣工。当初１棟だけの校舎でしたが、秩父盆地を一望に見渡す県内唯一の景観を誇る校舎が誕生しました。入学者数は昭和44年度入学の６期生から４学級となり、それ以降校舎などの建設ラッシュとなります。校地拡張運動により、48年３月には県立移管当時に考えた校地が確保されました。

また、50年度から平成12年度までの26年間は１学年５学級となり、平成元年度のピーク時には３学年で７１３人の生徒が入学していました。当時普通科設置を打診されましたが、校内・町当局とも検討し、商業課程のみの単独商業高校を貫くことを表明しました。

56年度にはＪＲＣ同好会(現在ＪＲＣ部)が発足し、学校献血で１か月に２００人余の献血協力を得ました。この取組をきっかけとして、やがて慈善バザー、募金活動などさまざまな社会貢献の取組も始めます。その一つである地域住民向け公開講座は、本校の人的・物的教育条件を広く地域に公開し連携を図るもので、現在も県下最大規模で開講しています。

59年５月、生徒が発案したクリーン・キャンペーンを初めて実施しました。学校から皆野・親鼻駅までの通学路を清掃。校訓にもある「奉仕」の活動として伝統的な取組となり、今年度まで24年間実施しました。

平成２年６月には情報処理科設置に伴い施設設備が充実し、情報処理棟が完成。当初のコンピュータは県内高校初のＩＢＭ社製の最新機器を導入しました。

制服は、開校当初男子は黒の詰襟服、女子はセーラー服でしたが、平成元年度から現在のブレザー型の制服を採用しました。

地域に根ざした特色ある商業の専門高校として、希望に満ちた新たな一歩を強く踏み出しました。

寄稿　皆野高校校長　浅見和義

現在の在校生アンカーズたち(令和7年4月撮影)。
少人数だが皆高の歴史エピローグづくりに精力的に取り組む。